

和歌山県日高郡日高川町および伊都郡かつらぎ町

「体験教育旅行&夏学習～都会と大自然の出会い」



【地域の基礎データ】

人口：	9,775 人（日高川町／令和元年 12 月末現在）
	16,650 人（かつらぎ町／令和元年 12 月末現在）
高齢化率：	34.9%（日高川町／平成 31 年 1 月 1 日現在）
	38.0%（かつらぎ町／平成 31 年 1 月 1 日現在）
産 業：	農業、林業 など（日高川町）
	農業、製造業 など（かつらぎ町）

【活動の基本情報】

参加学生数：	15 名（1 回生：12 名、2 回生：3 名）
活動期間：	平成 29 年 5 月
担当教員：	東悦子、中串孝志

1. 活動実施の経緯

2019 年度 LIP 夏旅は、教育学部との連携事業として 3 年目の取り組みであった。本事業は大阪府泉大津市と和歌山県日高川町との友好都市連携に基づく相互交流事業を土台とし、泉大津市と日高川町の小学生を対象とした。和歌山大学は教育学部と観光学部の学生が各学部の学びの特性を活かして、2泊3日の夏季学習キャンプの活動を企画し実施した。

2. 活動の内容

①泉大津市・日高川町プログラムは、8月19日～21日の日程で日高川町において実施。観光学部からは5名の学生が参加した。教育学部教員とともに中串孝志が引率した。

②和泉市・かつらぎプログラムは、8月22日～24日の日程で和泉市において実施。観光学部9名が参加（内1名は①、②の両プログラムに参加）。教育学部教員とともに東悦子が引率した。

夏季学習キャンプの準備として、教育学部教職大学院・岡崎裕教授による教育学部生と合同の事前研修が実施された。また両プログラムにおける活動の企画と準備はグループに分かれて学生が自主的に取り組んだ。さらに適宜、観光学部生のための LIP 夏旅としての事前・事後研修も行った。夏旅実施後、報告書の作成や合同報告会に向けての準備に取り組んだ。

3. 活動を通じて

小学生を対象とする企画に戸惑う様子もみられたが、実際に小学生に接する機会を得て、学生達は、児童の安全に留意しなければならない等の責任感が強まったようだ。LIP 報告会で発表する学生達は結束も強くなり、準備不足であった点などについて、活動の振り返りも的確であった。児童を導く立場を経験したことによって、学生達の成長ぶりがうかがえた。

4. 成果物など

夏旅 LIP

～和泉・かつらぎ都市間交流～



1 「夏旅」とは

和歌山県伊都かつらぎ町と大阪府和泉市との交友都市親善交流会を母体とし、かつらぎ町と和泉市に在住する小学生を対象とした一泊二日の夏合宿です。子供たちの交流や思い出を作る場の提供や、彼らが成長するための支援を私たち和歌山大学生が町、市、大学の教職員とともに行いました。



2 「夏旅」での我々の目的

子どもたちの親善交流会においてリーダーとなることによって私たちは

- 企画力
- 柔軟性
- リーダー性、主体性

を身に着けることを目的としています。



井川・池尾・上村・岡野
笠原・小西・土井・中塚・森本

3 活動の行程

前日準備

主催者の皆様と打ち合わせをし、会場の飾り付けもしました。



1日目

私たちが考えたアクティビティで子供たちと触れ合いました。



2日目

ハイキングでは私たちが引率して、子供たちの安全を管理しました。



まとめ(学びと課題)

3日間を経て私たちはたくさんのことを学びました。①子供たちとのふれあいを通して、接し方の難しさや安全管理の大切さを学びました。②他のスタッフを参考にして、最後には一人ひとりがそれぞれの接し方で子供たちと関わることができました。課題点を挙げるならば、準備においての自分の理解不足があり、そのままリハーサルに時間がかかってしまったことです。私たちはこの失敗を次に活かそうと思いました。子供たちだけでなく私たち学生もリーダーも皆が笑顔で楽しかったと思えるようにしようという気持ちで、事前準備を重ねてきました。最終日が終わると子供たちの別れを惜んでいる様子を目にし、より一層地域間交流の大切さについて学ぶことができました。